



学校評価の活用

教頭

今年度も1学期末、2学期末に児童、保護者の皆様、教職員に学校評価のアンケートに回答していただきました。結果を集計し、中田小学校、中田っ子の課題だと思われること（評価の低かった項目）について、知・徳・体の3部会で対策を話し合って改善策を講じてきました。

例えば、1学期末の結果を受けて、朝の時間に基礎的な漢字や計算の力を付けるためのミニプリントを継続して実施しました。また、もっと読書に親しむように取り組んだことは、下の欄に書いてある通りです。相手の気持ちを考えられるようにするためには、異学年による交流がよいのではないかと、集会や縦割り活動を取り入れました。



学校としては、精一杯取り組んだつもりですが、2学期末の評価は決して高くはありませんでした。保護者の皆様に学校のがんばりが伝わっていないのだろうか、もっとできるはずだという励ましだろうかとその評価の意味するところを考えています。次年度に向けてよりよい評価がいただけるよう、さらなる改善策を出し合い努力してまいります。

しかし、学校の努力だけでは難しいものがあります。評価の低い項目の中に「早寝」「ゲームやTV等の視聴時間」がありますが、これは、家庭のご理解・ご協力なくしては改善されません。また、挨拶や善悪の判断についても、より一層のご協力をいただけたらありがたいと思います。家庭と学校の連携があつてこそ、児童の健やかな育成が実現されていきます。今一度、学校評価の項目をご覧になって、家庭での子育てにおいても参考や指標にさせていただけないでしょうか。

読書好きな子供に



図書主任
学校司書

2学期より、火曜日と木曜日の朝活動の時間に、全校で読書に親しんでいます。また金曜日は週末読書として本を2冊借りることができるようにしています。図書室では、「次、これ読もうかな」と楽しそうに本を選ぶ様子がみられます。絵本バッグを用意していただいたことで読みたいときにすぐ手にとれるようになりました。

全校のみんなが本に親しめるように、図書委員会が「英語の本の読み聞かせ」や「読書おみくじ」等のイベントを行ったり、学校司書が読み聞かせやブックトークをしたり、給食の時間に校長が全学年を巡回して読み聞かせをしたりするなどの活動もしています。

読書は、文字を読む力だけでなく、物語の中で登場人物の気持ちを考えたり、自分と違う考え方や世界に触れたりすることで心も育ててくれます。また、本を通して得た言葉は、自分の気持ちを表したり、人に伝えたりする力にもつながっています。読書の楽しみ方に決まった形はありません。短い本、絵が多い本、同じ本を何度も読むことも大切な読書の一歩です。学校では、一人一人のペースを大切にしながら、本と出会う時間をこれからも大切にしていきたいと考えています。

ご家庭でも、週末読書について「どんなお話だった?」「どこがおもしろかった?」などと声をかけてみてください。大人と気持ちを共有することで、読書の時間はより楽しく豊かなものになります。学校と家庭が一緒になって子供たちが本に親しむ環境を整えていけるとと思います。中田コミュニティーセンター1階の「中田図書館」もぜひご利用ください。

